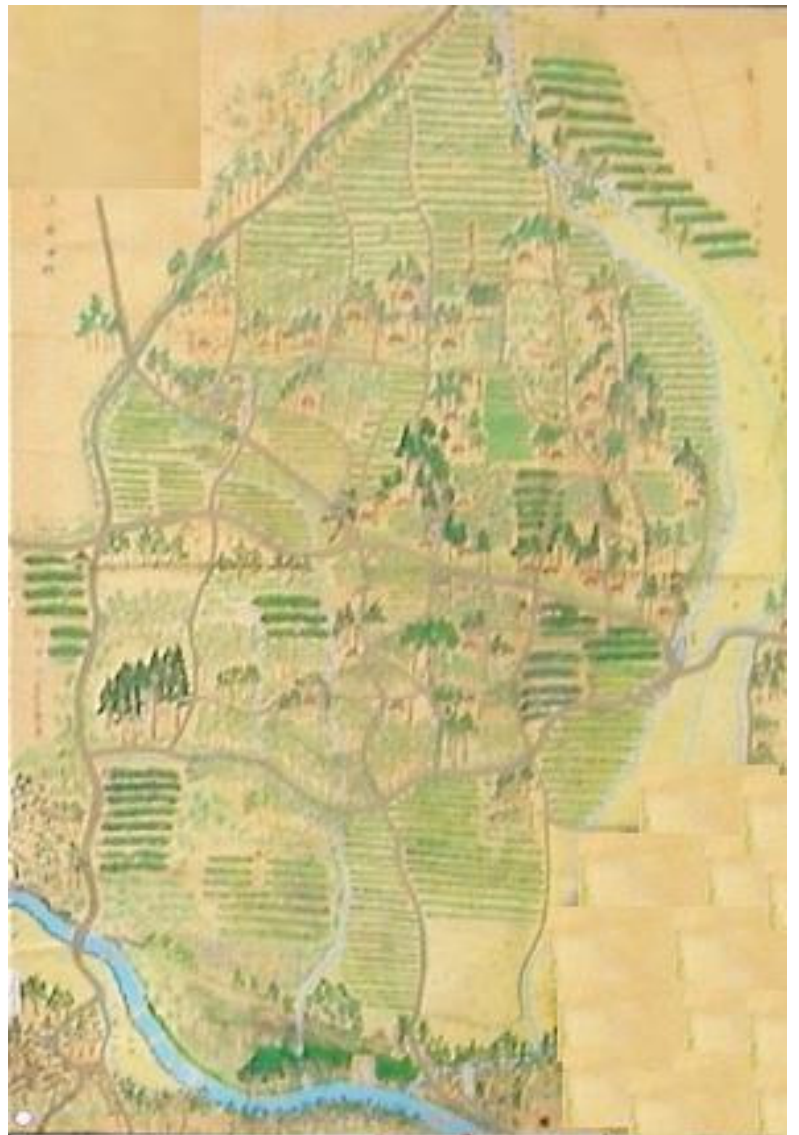


絵で見る落合の昔 ～自然・川・生き物

今回の展示では、江戸近郊の農村であった落合の昔を皆さんに見ていただきます。明治・大正時代になっても変わらず近郊農村であった落合。その中でも上落合地区は早くから開けていました。八幡様の宮司さんが出版された「うつりゆくかげ」という書物が資料コーナーにあります。付録に、江戸・天保時代の上落合を想像して描いた絵図が付いています。そこに描かれている神田川と妙正寺川の流れと豊かな田園の連なりはかつての落合の原風景…。この絵から落合全体に想像世界を膨らませて篠田邦子が描きおろした「落合の昔」絵図全4枚が資料コーナーに。

40年ほど前に落合の町名は定まりました。それまで、下落合は広大だったため、中井と中落合が分かれ、落合は5つの町で構成されるようになりました。なお、中井という地名は御霊神社があるとおり古くからの地域名です。70年ほど前から町名となった西落合は古名葛ヶ谷で、公園の名で残っています。



葛が谷図 伊佐大蔵画